



2006年3月31日

日本応用心理学会ニュースレター

——コミュニケーションの広場——

No. 15

役員選挙結果

選挙管理委員会委員長 浮谷 秀一

2005年9月に福島学院大学で開催された第62回大会総会において、会則改正および役員選出・選挙規程が承認され、日本応用心理学会初の全会員による選挙が実施されました。

有権者（2005年9月15日時点で2004年度までの年会費納入済会員および2005年度新入会員）は、900名でした。まず、郵送による理事・監事選挙が10月から11月にかけておこなわれました。返信された有効投票数は181通（無効投票数2通）でした。この選挙で新理事24名および新監事2名が決まりました。次に、現常任理事会の推薦による推薦新理事12名が決められ、2006年1月から2月にかけて郵送による常任理事選挙がおこなわれました。その結果、新常任理事15名が決まりました。理事長選挙は、3月11日（土）に新常任理事15名（出席者12名）の投票によっておこなわれました。投票結果は、岡村一成氏10票、荻野七重氏2票となり、新理事長に岡村一成氏が当選しました。

（東京富士大学教授）

- 返信総数（封筒数） 183通
- 有効返信数（封筒数） 181通
- 無効返信数（封筒数） 2通
- 投票総数：理事選挙 905票
- 監事選挙 181票

○理事選挙結果（敬称略、五十音順）

		氏名	得票数
1	当選	岡村 一成	70
2	当選	藤田 主一	45
3	当選	外島 裕	43
4	当選	浮谷 秀一	42
5	当選	荻野 七重	28
6	当選	馬場 房子	21
7	当選	松田 浩平	20
8	当選	内藤 哲雄	16
9	当選	田之内厚三	14
10	当選	所 正文	14
11	当選	垣本由紀子	13
12	当選	細江 達郎	13
13	当選	森脇 保彦	13
14	当選	鎌形みや子	12
15	当選	小野 浩一	11
16	当選	高石 光一	10

日本応用心理学会役員選挙 （理事/監事）結果

- 有権者数（投票用紙送付数） 900名

目 次

日本応用心理学会役員選挙結果 ……浮谷 秀一	1	第73回大会からのお知らせ ……準備委員会	5
応用心理学と私、日本応用心理学会への期待 ……神作 博	3	お詫びと訂正 ……広報委員会	5
日本応用心理学会での50年、大脇義一先生のことなど ……長塚 康弘	4	訃報 ……	5

17	当選	森下 高治	10
18	当選	田中 真介	9
19	当選	蓮花 一巳	8
20	当選	柏木 恵子	7
21	当選	嘉部 和夫	7
22	当選	大坊 郁夫	7
23	当選	谷口 泰富	7
24	当選	松浦 常夫	7
	次点	関口 和代	7
25	当選	井上 孝代	推薦
26	当選	尾入 正哲	推薦
27	当選	大橋 信夫	推薦
28	当選	大淵 憲一	推薦
29	当選	川本利恵子	推薦
30	当選	桐生 正幸	推薦
31	当選	豊村 和真	推薦
32	当選	星野 仁彦	推薦
33	当選	松下由美子	推薦
34	当選	南 隆男	推薦
35	当選	三戸 秀樹	推薦
36	当選	向井 希宏	推薦

○常任理事選挙結果 (敬称略、五十音順)

		氏名	得票数
1	当選	岡村 一成	20
2	当選	浮谷 秀一	9
3	当選	荻野 七重	8
4	当選	外島 裕	8
5	当選	藤田 主一	8
6	当選	田之内厚三	5
	辞退	小野 浩一	4
7	当選	垣本由紀子	4
8	当選	内藤 哲雄	4
	辞退	馬場 房子	4
9	当選	松浦 常夫	3
10	当選	大橋 信夫	2
11	当選	所 正文	2
12	当選	松田 浩平	2
13	当選	南 隆男	2
14	当選	向井 希宏	2
15	当選	蓮花 一巳	1
	次点	細江 達郎	1
	次次点	森下 高治	1

○監事選挙結果 (敬称略、五十音順)

		氏名	得票数
1	当選	藤森 立男	35
2	当選	玉井 寛	5
	次点	山本 寛	5

日本応用心理学会役員選挙
(理事長) 結果

- ・有権者数 15名
- ・投票総数 12票

日本応用心理学会役員選挙
(常任理事) 結果

- ・有権者数 36名
- ・返信総数 (封筒数) 32通
- ・有効返信数 (封筒数) 32通
- ・無効返信数 (封筒数) 0通
- ・投票総数 96票

○理事長選挙結果 (敬称略、五十音順)

		氏名	得票数
1	当選	岡村 一成	10
	次点	荻野 七重	2

注：獲得得票数が同数の場合には抽選により当選者を決定しました。

選挙を終えて

今回の選挙結果をニュースレターに掲載いたしました。本来であれば理事長が決定した時点で、会員の皆様に選挙結果をいち早くお知らせすべきでした。結果のお知らせが遅れたこととお詫びいたします。

名誉会員からのメッセージ

2005年9月に福島学院大学で行われた日本応用心理学会第72回大会総会(星野仁彦委員長)において、神作博氏、長塚康弘氏の2名の先生が名誉会員に推選されました。今回、2名の先生から本学会とのご関係についてご寄稿いただきました。

応用心理学と私、 日本応用心理学会への期待

名誉会員 神作 博

私が日本応用心理学会へ入会したのは、1959年5月の第26回大会(於日本女子大学)の折と記憶しています。当時、航空宇宙心理学の研究者であった私は、斯界(特に航空交通および産業関係分野)のご経験豊富な先生方の多くおられるこの学会において、種々お教を頂きたく入会したわけです。



1968年4月に中京大学へ移り、当時文学部長であった結城錦一先生より心理学科において応用心理学担当を奨められて以後、大阪大学より着任された鶴田正一教授のもとで、大学院・学部ともに「応用系」を形成し、一貫してこの領域に関係しております。

博士課程(現在は心理学研究科博士後期課程)まで、「応用心理学」の正式名称を有する教育・研究機関の担当者として、いつも“応用心理学”とは?を考え続けざるを得なかったという立場に置かれておりました。それと同時に専門学会の分派独立して行った後の当応用心理学会では何をすべきかについても、常任運営委員(現常任理事)を長く勤め、また、当学会第36回大会(結城錦一会長)、第48回大会(鶴田正一会長)では大会開催の事務担当を、第63回大会では会長を勤め大会内容を企画・実行する間にも、常に考えておりました。

それらの内容は次のようなものでした。

①社会の実際面における人間行動の基本原則を明らかにすること、心理学そのものの基本と同じではあるものの、“実際面における”という点で応用心理学の各専門分野を超えて存在する基本原則を、関係の実践者にもよく理解されうる形で示すことが要請されているように感じられます。

例えば、「面接・面談」、「テスト」などの心理技

術について世代間の技術伝達、すなわち「技術移転を如何にすべきか」の問は、臨床心理士、安全関係助言者、研修・教育関係者、経営アドバイザーなどについて、すべてに共通に必要とされる問題であり、また、中・高年者と若年者間のコミュニケーションのあり方、対人関係の築き方なども専門分野を超えて共通に存在する問題といえましょう。実社会ではすでに「異業種交流」などが実践されておりますが、これと軌を一にする問題として研究・実践面でも同様な発想が必要とされましょう。

②いくつかの応用専門領域にまたがる社会的問題・現象についての総合的・多面的検討の必要性

例えば、産業界における精神不健康問題発生の防止や、児童の通学等における安心・安全の問題、バリアフリー、ユニバーサルデザインの実現上の課題、環境における景観問題など、また、今日的なものとしては、万国博覧会に集う人々の考え方や心理、WBC(World Baseball Classic)において示された国民的結束・高視聴率のメカニズム、IT技術の伝播・普及と使用者の満足感、なども、応用心理学のいくつもの専門領域の知見や発想、実績が寄せ合わされて総合的に解明・解決されるべきことであると考えられます。

③社会的実践的行動の精神的基盤の解明の必要性例えば、障害者・高齢者などへの社会の諸々の支援・募金、さらにはマナー、流行、同調行動、団結力、などの諸社会行動の精神的バックボンの形成の探究ならびに日本人の独自性の解明などが今求められているように痛感されます。

私のような浅学非才の身ではただ考えるだけで長い年月が過ぎてしまいましたが、有能多彩な人材を豊富に擁する当学会の現状を考えますと、前途に非常に明るいものを感じられます。

社会の“真の応用心理学”待望論を考えると、当日本応用心理学会への期待大なるものがあります。

(中京大学教授・放送大学客員教授)

日本応用心理学会での50年、 大脇義一先生のことなど

名誉会員 長塚 康弘

私が本学会を知ったのは1956年夏過ぎのことである。4年生で卒業論文の実験に追われていた。秋11月に大脇教授のもとで応用心理学会という全国学会が開催されるので手伝って欲しいという話が伝えられた。博士課程学



生の丸山欣哉先生のお話だったと思う。それは22回大会だった。学会史によればこの大会ではそれまで最多の169発表が行われたとあるが、記念写真撮影時の整理が大変だったことや、携帯電話などのない時代のこととて、離れた研究室と会場との連絡等に走り回ったことを思い出す。大脇教授のお取りまとめによる交通関係のシンポジウム、科研費研究成果報告会、講演会があり手伝いの合間に興味深く聴講した。交通心理学を面白いと思った。交通心理学への誘いの機会だった。

翌年5月に国際基督教大学で23回大会が開かれた機会に入会した。それからちょうど50年、会員として活動を幸い長く続けることができた。過日は名誉会員にご推薦いただいて恐縮したが、このような光栄に浴し得たのは本学会関係者の皆様のご支援のお陰と深謝するとともに応用心理学研究へと動機づけて下された大脇先生のご薫陶の賜物と感謝するものである。

大脇先生には本学会への入会と大会での研究発表を強くお勧めいただいた。「応用」の意味も分からぬ時、卒業論文で取り上げた仮現運動の見え方と身体筋肉的疲労状態との関係についての検討を進展させる機会を与えていただき、刺激ランプの精密化などに丸山先生のご指導もいただきながら実験を重ね、

論文にまとめた。1958年の大阪大学での25回大会で発表した。初めての発表だった。東北本線をSLが走っていた時代、長旅だった。

これより前、先生を委員長とする本学会の交通事故防止研究では警視庁や鮫洲、小金井の免許試験場で運転適性検査研究が実施されていたが、私は選択反応検査器の運搬やセットなどをお手伝いし、お引き回しいただいた。

先生は国際交流委員会委員としてパリ、コペンハーゲンほかの大会に出席されるなどの活動のほか、1990年の日本開催についての海外関係者への非公式打診活動や実行委員会、組織委員会の編成準備、広報活動も行っておられた。学会史によると準備は1965年ころから始まっていたのである。現在私も国際交流委員会委員として用務に携わっているのも先生の七光りによるのだろうかなどと思うことがある。

先生は1967年の会報で「国際応用心理学会の結成の動機とその今日の構想」と題する報告と提言をされ、応用心理学の本質と将来についてのBonardel, R.の言を引用し、つぎのように述べておられる。

応用心理学は純粋心理学の研究結果や原理、方法をそっくりそのまま実際問題に「応用」する科学と解するのは大きな誤りである。社会に起こる実際問題は複雑多義であって、実験室実験で得られた結果や法則は役に立たない。…交通事故とか犯罪防止とか、それぞれ特有の問題構造を明らかにし、その上に立って問題解決の方法を探究する。…応用心理学は独自の問題分析方法と解決方法を考究する。この意味において、応用心理学は「応用」ではない、と。私が応用心理学研究に取り組む際の指針の一つとなっている。学会の一層の発展を祈念して筆を置く。

(新潟大学名誉教授)

第73回大会からのお知らせ**日本応用心理学会第73回大会準備委員会**

1. 大会参加手続きについて

日本応用心理学会第73回大会関連の手続きおよび関連費用につきましては下表のようになります。詳細につきましては大会通信および下記の Web アドレスをご覧ください。会員の皆様には広くご参集下さいますようスタッフ一同心よりお待ち申し上げます。http://dbl.wdc-jp.com/jaap/ps73/jp/

第73回大会締切一覧

	大会参加申込	原稿	大会参加費
郵送の場合	5月31日	6月15日	6月30日
WEBの場合	6月18日	6月30日	6月30日

第73回大会参加諸費用

	区分	正会員	正会員 (大学院生)
大会参加のみ	予約	¥5,000	¥2,000
	当日	¥6,000	¥3,000
研究発表のみ	前納	¥10,000	¥5,000

自主シンポジウム 企画のみ	前納	¥10,000	¥5,000
ワークショップ 企画のみ	前納	¥10,000	¥5,000
研究発表と自主 シンポジウム企画 または研究発表と ワークショップ企画	前納	¥15,000	¥8,000
懇親会	予約	¥5,000	¥2,000
	当日	¥6,000	¥3,000

若手研究者支援の補助金については大会当日にお支払いします

2. 「大会通信」の訂正について

先般お送りしました、第73回大会の大会通信に誤りがございました。理事会・理事懇親会の日程と場所は、正しくは以下のとおりです。

9月8日(金) 東京ガーデンパレスにて開催します。

- ・理事会：須磨の間 17:00~19:00
- ・理事懇親会：華の間 19:00~21:00

以上、お詫び申し上げます。

「お詫びと訂正」

日本応用心理学会ニュースレター No. 14 (2006年1月31日) に掲載された「第72回大会公式記録(変更および取り消し)」のうち、以下の記述を削除していただきたく、お願い致します。

【削除項目】

研究発表について (変更)

下記教室の座長は次のとおり変更になりました。

カーサ 21 213 教室

座長 弓削美鈴氏は、山梨大学大学院医学工学総合教育部人間環境医工学 小西奈美氏に変更以上、お詫びし訂正致します。

計報

本学会名誉会員であり、第65回大会(龍谷大学:1998年)の大会委員長を務められた田中昌人先生が2005年11月18日に逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げますとともに、生前の本学会へのご貢献に感謝いたします。

発行 広報委員会
委員長 藤田主一
日本応用心理学会事務局
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 4-4-19
(株)国際文献印刷社内
電話 03-5389-6491 FAX 03-3368-2822